

令和6年 第1回福祉医療常任委員会所管事務調査報告書

令和6年2月19日

別海町議会議長 西 原 浩 様

福祉医療常任委員長 外 山 浩 司

福祉医療常任委員会の所管事務の調査を実施したので、別海町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

《第1回》

1 日時

令和6年2月19日（木） 午前9時56分から午後1時46分まで

2 開催場所

委員会室3

3 出席委員

外山委員長、中村委員、小椋委員、高橋委員

4 欠席委員

宮越副委員長

5 委員外

西原議長

6 調査事項

（1）町立別海病院の運営について

（2）福祉除雪について

7 説明員の職と氏名

福祉部長 干場みゆき、福祉部次長 谷村将志、福祉部次長 田村康行

福祉課長 石戸谷 友絵、介護支援課長 高橋勇樹、町民課長 上田健一ほか

上下水道課長 千葉宏、上下水道課主任 矢野勝也

病院事務長 三戸俊人、病院事務課長 木直人、病院事務課主幹 奈良司ほか

8 調査結果

【福祉部所管事務調査】

(2) 福祉除雪について

- ・質疑等については、別添要点記録のとおり。
- ・委託先を公募し「別海季節労働組合」1社の応募があり行っているが、組合員の高齢化や責任者の健康面等で継続が限界に近いように思われる。早々の対策が必要である。
- ・この制度を維持していくために賃金のUP等の制度の見直しも必要ではないか。
- ・現在、除雪の幅が1m程で、車椅子の利用に支障が出ている。ディサービスに通所している人は、迎え車の時間に除雪が間に合わない時もある。隣の人や大家さんに依頼をしたこともあった。
- ・1時間3,000円程の賃金であれば、個人でやってくれる人も居るのではないかな？アプリで連絡し、作業をしてもらう方法。その賃金に地域通貨(カウカウ券)を活用すると、地域の活性化にもつながるのではないかな。
- ・地域にある資源(人、物<タイヤローラー>)を有効活用していく。個人で所有していて、自宅周辺の除雪が終われば、時間が空いている場合があるのでは。
- ・除雪と高齢者等の移動交通手段(ライドシェア)の問題をアプリと地域通貨の利用で対応できないか。
- ・建設部(委託路線業者担当)と福祉部が連携して機械除雪と手作業除雪を組み合わせることで手作業除雪の負担軽減ができないか。
- ・地域で助け合いによる除雪も理解できるが、隣近所も高齢者であり、不可能になってきている現状もある。助け合いも限界。
- ・別海町への移住者に向けて「除雪と交通支援が充実の別海町」とPRできる体制づくりを。

【病院所管事務調査】

(1) 町立別海病院の運営について

- ・質疑等については、別添要点記録のとおり。
- ・3月末で、内科医と外科医の2名が病院を退職するが、今までも理事者側の動きが見えていない。
- ・医師不足の対策として研修医を囲い込むことができないか。研修医の話を聞くと、別海町へは、好印象を持っている様子である。医師の将来的な展望もあるので、数年間でも本町で勤務してもらえるように働きかけができないか。
- ・医師の退職により、診療や手術が減り、看護婦不足は少し解消されるだろう。
- ・経営強化プランでの収支見込みは、疑問が残る。
- ・病院ではあるが、別海町の職員として職場環境が大切である。(人間関係等)

以上